

1) システムの名称 :

SBS DoctorX Series / PrimeKarte (ドクターエックスシリーズ / プライムカルテ)

2) 対象業務、電子カルテシステム内での位置付け :

2. 所見記述系 (電子カルテ)、1. オーダントリ系

3) 特色 :

SBS DoctorX Series / PrimeKarte は、生涯カルテを目指し、「トータルヘルスケアサポート」を実現します。

■ ■ 標準化に対応 ■ ■

標準マスタ/コード及び「HL7」、「IHE-J」の標準的情報交換規約を採用し、今後一層進んでいく医療情報の標準化や地域医療連携の発展に柔軟に適應できます。また、SS-MIX に準拠した形式での紹介状 CD 出力機能を標準搭載しており、地域医療連携を見据えた設計となっています。

■ ■ 高速レスポンス ■ ■

アプリケーションやデータベース構造を「参照したい情報に、いかに効率よく到達できるか」に重点を置いて設計しました。また、部門システムとの連携処理に対策を施し、さらにユーザインタフェースと操作性において使いやすさを追求しました。これらにより、レスポンスの高速化を実現しています。

■ ■ 段階的なレベルアップが可能 ■ ■

「必要なとき、必要なだけ」というコンセプトの下、オーダントリシステムから電子カルテシステムへの拡張導入が可能です。段階的なシステム導入により、電子化にかかる実務的・精神的負担、さらには費用面での負担をも軽減します。

■ ■ 多彩な入力形式での診療録入力 ■ ■

カルテと SOAP の記載には様々な入力事項があります。PrimeKarte では入力時の負担を軽減し、各種データを有効活用できるように、初期データを含めたテンプレートを展開することで、入力の簡便化、記述内容の統一、入力データの活用 (統計など) を実現します。また、フリーテキスト入力による、定型では補えない表現の入力もできます。

■ ■ 操作性の向上 ■ ■

前回カルテ・オーダ歴・検査結果を参照、そして D0 転記などを利用しカルテ記載をスムーズに行えます。PrimeKarte では外来と入院患者で初期展開される画面レイアウトを別に設定し、状況に応じた必要な情報を瞬時に確認し記載できます。操作者単位による各種設定も可能です。

さらに、カルテ記載は入力を途中で保留にして他の作業に切り替えることができますので、患者様の状態・経過をリアルタイムに確認しながらカルテをスムーズに記載できます。また、マルチ・モニターを使用することにより、より多くの情報を同時に閲覧することが可能となります。

■ ■ 紙文書の電子化に対応 ■ ■

「紙」で発生する文書については、スキャナで取り込むことができます。業務終了後にまとめてスキャン処理する運用を実現し、紙カルテのファイリング業務の軽減、電子カルテ化を図ります。

■ ■ カルテの Web 参照 ■ ■

過去のカルテを院内の Web ブラウザだけで参照することができます。処方歴や検査結果、手書文書のスキャナ取込情報や職制別の全ての記録や SOAP などを簡単に閲覧することができます。

■ ■ 経営支援 ■ ■

物流、経営支援、人事・給与システムと密接な連携も実現でき、病院経営の指標として強力にサポートします。

4) 画面/構成図を含めた分かりやすい説明 :

PrimeKarte イメージ図

外来

入院

ドラッグ&ドロップで前回カルテからの DO ができます。

前回カルテ

所見記述

オーダ入力

前回カルテ

体温表

利用者ごとに、「お気に入り」へ頻用機能のボタンを登録でき、個人レベルで使いやすさの追求が簡単です。

ワイドディスプレイ対応。外来画面では前回カルテの参照とカルテ記載が容易になり、入院画面では入院患者の経過が一目瞭然です。



5) 標準化への対応状況、未達成の場合対応予定および対応のための追加費用の有無：

- マスタ／コード体系：標準医薬品マスタ (HOTコード)、標準病名マスタ (ICD10)、標準手術・処置マスタ (MEDIS-DC)、臨床検査項目分類コード (JLAC10)、JJ1017 画像検査コード Ver3、加付記載テンプレート項目に J-MIX 採用 (全て標準で提供)
- データ交換規約：HL7 (Ver2.5) / 患者基本 (ADT)、投薬系 (OMP)、検査系 (OML)、放射線 (OMG)、各システムと連携に利用可能。HL7 CDA R2 (紹介状システムにて採用・実装)
- データ交換手法：TCP/IP ソケット、XML ファイルに対応
- IHE-J コネクタソン実装：Order Placer, Image Display
- 厚生労働省電子的診療情報交換推進事業規格適合済み

6) 動作環境 (ソフトの場合)、ハードスペック (ハードの場合)：

- 【サーバ構成】
Linux (R) または Windows Server 2008 (R) 日本語版以降
- 【クライアント構成】
Pentium (R) 以上の Intel (R) プロセッサ (Core i5 以上を推奨)
Windows (R) XP SP3 日本語版以降
1GB 以上の RAM (2GB 以上を推奨)、ディスプレイ解像度 SXGA 以上を推奨

7) 稼働までに必要な作業・期間：

病院担当者様及び部門システムベンダー様との打合せ (仕様の確定まで) ・半年～1 年程度

8) 価格 (桁数 (日本円における桁数)、「ご相談」は不可、桁数帯・金額・金額帯を入れても良い)：

1,000 万円～ (パッケージ価格) + SES (カスタマイズ費・機器費・交通費除く) + 連携費 (※税別)

9) 保守の内容と費用：

初期講習：医師向け及び看護師向け講習会開催
 初期導入保守：稼働及び運用開始立会い
 遠隔保守：ルータ及び遠隔監視ソフトによるリモートメンテナンス (電話回線費用は別途)

通常保守：月額 10 万円～ (導入オーダ種数による) ……サーバの定期監視、障害発生時訪問。
 (ハード保守費除く) (※税別)

10) 問い合わせ先 (販売会社 担当者、URL、e-mail 等) および開発元 (もし別途あれば)：

問合せ先：株式会社 SBS 情報システム <http://www.sbs-infosys.co.jp>
 〒422-8033 静岡県静岡市駿河区登呂 3-1-1
 TEL : 054-283-1450 ; FAX : 054-284-9182
 医療事業本部 営業担当 Mail : iryo@sbs-infosys.co.jp